

第 16 回関東 MIST 研究会 開催報告

2023年3月4日、順天堂大学医学部7号館小川秀興講堂にて第16回関東 MIST 研究会を開催しました。当番世話人を務めました順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学/順天堂医院脊椎脊髄センターの野尻英俊が報告いたします（写真1）。

今回は現地オンサイトのみでの開催とし、9題の一般演題と3テーマ4講演での構成に88人の医師にご参加いただきました。

一般演題はいずれも大変興味深く、時間いっぱいの熱いディスカッションが行われました。各発表は世話人先生方から採点式のご評価を頂き、北里大学北里研究所病院整形外科脊椎センターの鈴木薫先生が「成人脊柱後弯、変形性股関節症を併発し LLIF+脊椎矯正術後に股関節症状が改善した1例」でベストプレゼンテーションアワードを獲得しました（写真2）。

特別講演①では保存加療に精通した2人の先生に腰痛についてお話しいただきました。杉浦史郎先生（西川整形外科リハビリテーション部 部長/千葉大学大学院医学研究院環境生命医学 非常勤講師）の「腰痛のリハビリテーション ―発育期腰椎分離症を例に―」では患部の筋スパズムコントロールと joint by joint theory で患部（腰部）のコアトレーニング・患部外（胸椎、股関節）の柔軟性を高めることで伸展回旋ストレスを軽減していく方法をご教示いただきました。またスポーツ・栄養クリニック 理事長の武田淳也先生には（運動器診療と骨粗鬆症における、ピラティスを通じてのモーターコントロール（略してモタコン）指導の重要性と実際～脊椎を中心に」という演題でご自身の腰椎椎間板ヘルニアの手術体験時の実践したピラティスを中心にモタコンの概念、最適化に向けた実際の動きをご教示いただきました。2つのご講演から複雑な腰痛の病態の理解を深め、運動指導や治療法選択に役立つ知見を得ることができました。特別講演②では我々、順天堂医院脊椎脊髄センターセンター長/順天堂大学脳神経外科の尾原裕康先生に「顕微鏡下脊椎脊髄手術と全内視鏡下脊椎手術 何ができて何ができないのか？」という演題で鏡視手術の技の数々をご披露いただきました。鏡視手術をベーシックに使いこなすことで一歩先のアドバンテージが得られるものと再認識しました。本講演を見る皆様の引き込まれている姿が印象的でした。特別講演③では済生会川口総合病院副院長・診療部長・整形外科主任部長であります新井嘉容先生に「椎体間骨癒合一より早く、より確実に一」をお話しいただきました。近年の術式変化、ケージ開発により骨癒合率の改善が期待されます。どのような手術でも高い意識を持って生物学的椎体間骨癒合の獲得を目標にするべきで低侵襲手術が決して手抜き手術になってはいけないという大切なメッセージを伝えていただきました。大変貴重なご講演を頂きました先生方には心から感謝申し上げます。

今回、ご覧の通り除圧術や保存治療の発表、講演を多く取り入れました。本会は脊椎固定方法を語る会に留まらず、MIST学会の地方会である意義も考え、低侵襲脊椎治療を研究していく姿を示すことができました。多くの先生方に実りがあったものと信じます。低侵襲治療にはまだまだ多くの壁があると思いますが、安全に、そして確実に乗り越えていけるよう研究していくべきと考えております。本研究会がその道標となるよう願いますし、私自身も微力ながら貢献できるよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

最後に、ご参加いただいた先生方、ご協賛いただいた企業に深謝申し上げます。

会終了時の全員写真を提示します（写真3）

研究会終了後には東京ドームホテルに移動し、3年ぶりの懇親会を行いました。感染対策上、着座でのパーティー付きという制限がありましたが、楽しく熱く語り合いました。

次回の第17回関東MISt研究会は、船橋整形外科の小島敦先生が当番世話人をお務めになり2023年10月14日(土曜日)に開催予定となっております。皆様のご参加をお待ちしております。

第16回関東MISt研究会当番世話人

順天堂大学大学院医学研究科 整形外科・運動器医学

順天堂医院脊椎脊髓センター

野尻英俊

写真1



写真2

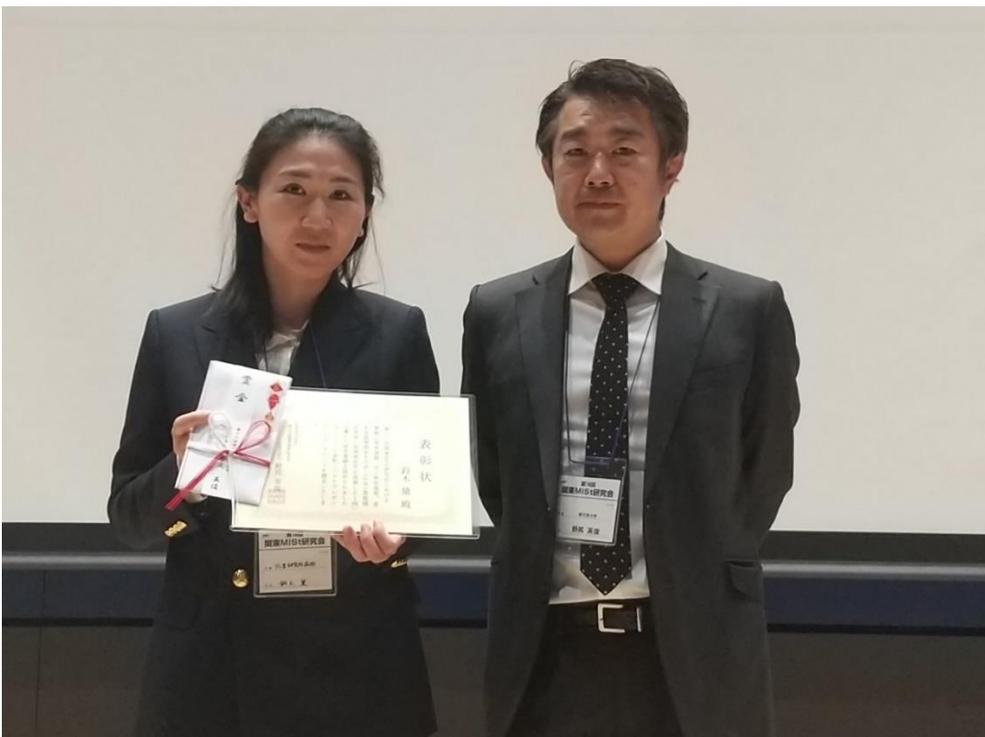


写真3

